



公共施設の建替えについて考えてみよう Vol. 4

～ 建替え時期の平準化と最適化 ～

財政管財課 ☎(92) 4104 2階 ⑬番窓口

Vol.1（2026年2月号）でふれたように、扶桑町の公共施設は、1970年代から1980年代に建てられた建物が多く、すべての建物を経過年数で建替えると建替え時期が集中してしまいます。

今回は、建替え時期を集中させないように平準化する必要性について考えていきます。

■建替え時期が集中すると

1 短期間に多額の経費が必要になる

建替え費用を当該年度の経常的な一般会計予算だけで賄うのは難しく、国等からの補助金に加え、貯金の取崩しや借金で賄うことになります。建替え時期が集中すると、借金の返済が重なり毎年の返済額が大きくなることにより、将来建替える施設のために貯金を積み立てることが難しくなるだけでなく、毎年実施している通常の事業への影響も大きくなることが想定されます。

2 建替えが集中する時期は職員が不足する

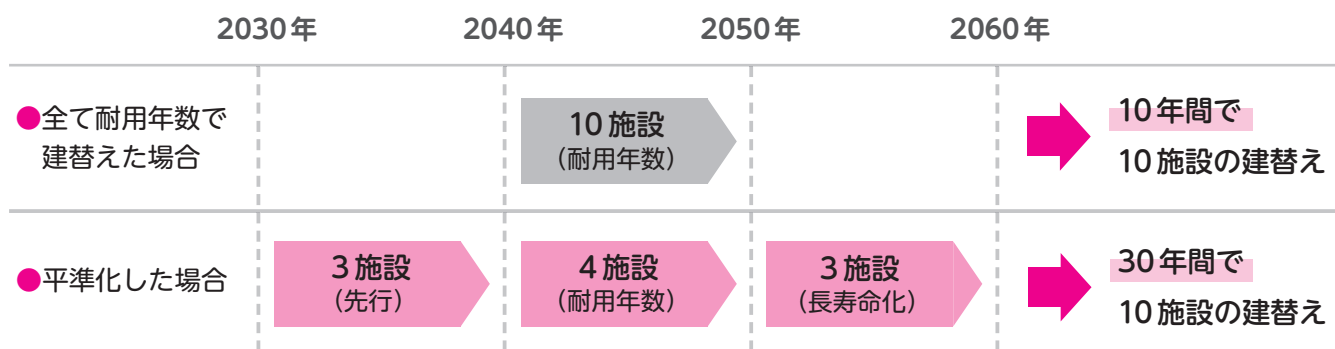
公共施設を建替える時は、施設の規模、用途により異なりますが、数人の専任職員が必要になり、建替え時期が集中し同時に進行する事業が多くなると、その時期だけ職員が足りなくなってしまうです。

3 将来にも影響する

建替えた後も、経年による改修工事は必ず必要で、建替えた時期が集中することにより、将来的に大規模改修工事する時期も集中してしまいます。

■建替え時期を平準化するために

建替え時期の集中を解消し、平準化させるためには、耐用年数より先行して建替える施設、耐用年数で建替える施設、耐用年数よりさらに長寿命化する施設を決めて、計画的に建替えていく必要があります。



建替え時期が集中する時期の解消だけではなく、その後も建替えが必要な建物が控えていることを考えると、長期的な視点での検討が必要になります。

■次回は 引き続き「建替え時期の平準化と最適化」について考えていきます。

■今回の記事についてのご意見・ご感想は

こちらから受け付けます →



QRコード以外からも受付しますので、財政管財課 施設管理グループまでお問い合わせください。お寄せいただいたご意見・ご感想は、今後の参考にさせていただきます。